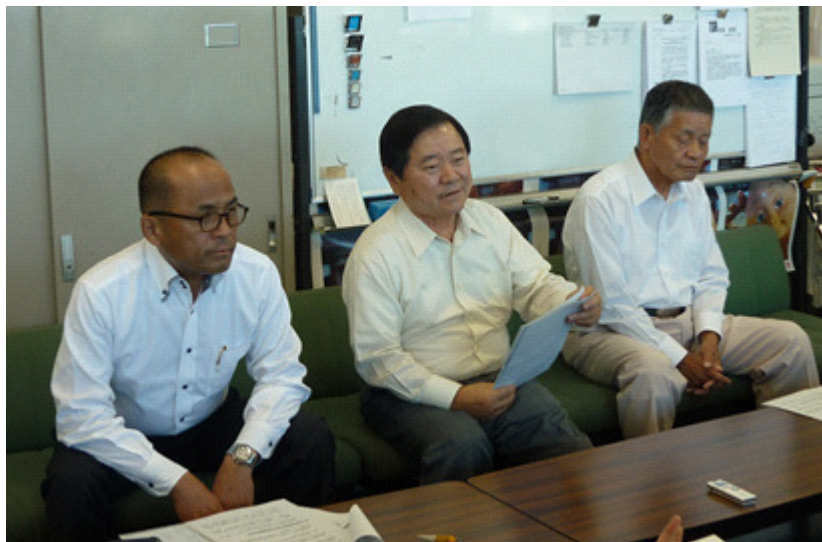


■ 議長記者会見概要

日 時：平成25年9月17日（火） 13：45～13：55

場 所：県政記者クラブ（県庁内）

出席者：山下力議長、井岡正徳副議長、国中憲治広報委員会座長



井岡 正徳 副議長

山下 力 議長

国中 憲治 広報委員会座長

〈案件〉

（１）議会改革の推進について

議会改革について、議会改革推進会議で、さまざまな観点から論議してまいりましたが、今回は予算審査特別委員会と決算審査特別委員会のあり方について論議してもらいました。両特別委員会を一本にして通年委員会にという意見も出たようでしたが、一括審査や通年審査とかの議論は今後の検討事項として、今回は、予算審査特別委員会・決算審査特別委員会共に部局別審査の冒頭に当局の説明が長々と続き、そのために審査時間が十分とれていないので、いっそのこと、両委員会とも、委員会の初日に一括して理事者から説明を受け、そして各部局に分けて審査していくことで、議員の審査の時間も十分確保できるのではないかというご意見でございました。各派連絡会でも一歩進んで、それでいこうということとなり、議会改革の方向が新たに定まりましたことを、ご報告します。

（２）「奈良県がんと向き合う日」の啓発について

平成21年10月に厚生委員会提案により「奈良県がん対策推進条例」を制定いたしました。毎年10月10日を奈良県がんと向き合う日と定め、街頭啓発活動を展開してきたところでございます。

去年10月「がん検診を受けよう！」奈良県民会議が設立されたこともありまして、

一層がん撲滅に向けた県の対策を意識しているところでございます。

本年10月10日に開催されます県民会議の総会や近鉄奈良駅前を拠点とする街頭キャンペーンなど合わせて県議会議員が参加する予定です。

(3) 高校生議会について

8月22日には2回目となる高校生議会を開催いたしました。県内6つの高校から27名が参加し、知事、教育長、警察本部長に対し高校生らしい率直な質問をぶつけ、知事も教育長らも議員に対する答えと同じような姿勢で真正面から受け答えされていたのが、印象として残っております。

高校生の提案は、私達議員と違った初々しい視点からの提案でございました。例えば奈良朱雀高校からのイベントの提案で、奈良が大和茶の産地で生駒が茶せんの産地であることから、全県的な茶道の会合をもってはどうかという提案がございました。私は県議会議員になって31年目ですが、これまでそういう提案は議員からは出たことがございませんでした。非常に新鮮な感覚で受け止めました。

このようないろいろな意見が出て非常に良かったと思いますので、今後とも続けてまいりたいと思います。

(4) なら燈花会期間中の「議場見て歩き」事業について

なら燈花会期間中は8月5日から8月14日まで10日間、「議場見て歩き」と議会ミニ音楽会を開催し、10日間で6,300人あまりの入場者があったということで非常に感動しているところです。さまざまなジャンルのグループや個人が一日一組で参加していただきました。この取組も継続できればと思っている次第です。

〈質疑応答〉

記 者：予算審査特別委員会と決算審査特別委員会は一本化されるということですか。

議 長：そういうことではありません。そういう意見が出たということですが、開催は今までどおり別々の開催となります。

これまでの進め方について、理事者側の説明が長く続き、審査の時間があまりとれなかったというご意見が有り、今回はそこから改革していこうということになったのです。

予算審査特別委員会、決算審査特別委員会ともそれぞれ説明を受ける日を設け、そこで一括して説明してもらうということです。

記 者：予算審査特別委員会は何日開催されますか

議 長：予算審査特別委員会は、初日に説明を一括して受け、初日も含め4日間で審議を行うというものです。

決算審査特別委員会は5日間です。

議会改革推進会議では通年で議会を開催するという意見もでており、そういう試行を行っている他府県の議会もあり、それらの実情を適宜視察するという事も申し合わせています。

副議長；奈良県は四会期制ですが、通年会期は長崎県で行われています。通年会期では理事者の拘束時間がながく審議時間が長すぎるという弊害もあります。二会期制も行われており、これは上手くいっているようで、検討していきたいと思います。

記 者；緊急事案に対応するということですか

広報委員長；二会期制では、会期中に何かがあれば議長が開催権をもっているということです。例えば6月から9月までに臨時議会を開かねばならないという時は、議長に開催権があることになります。